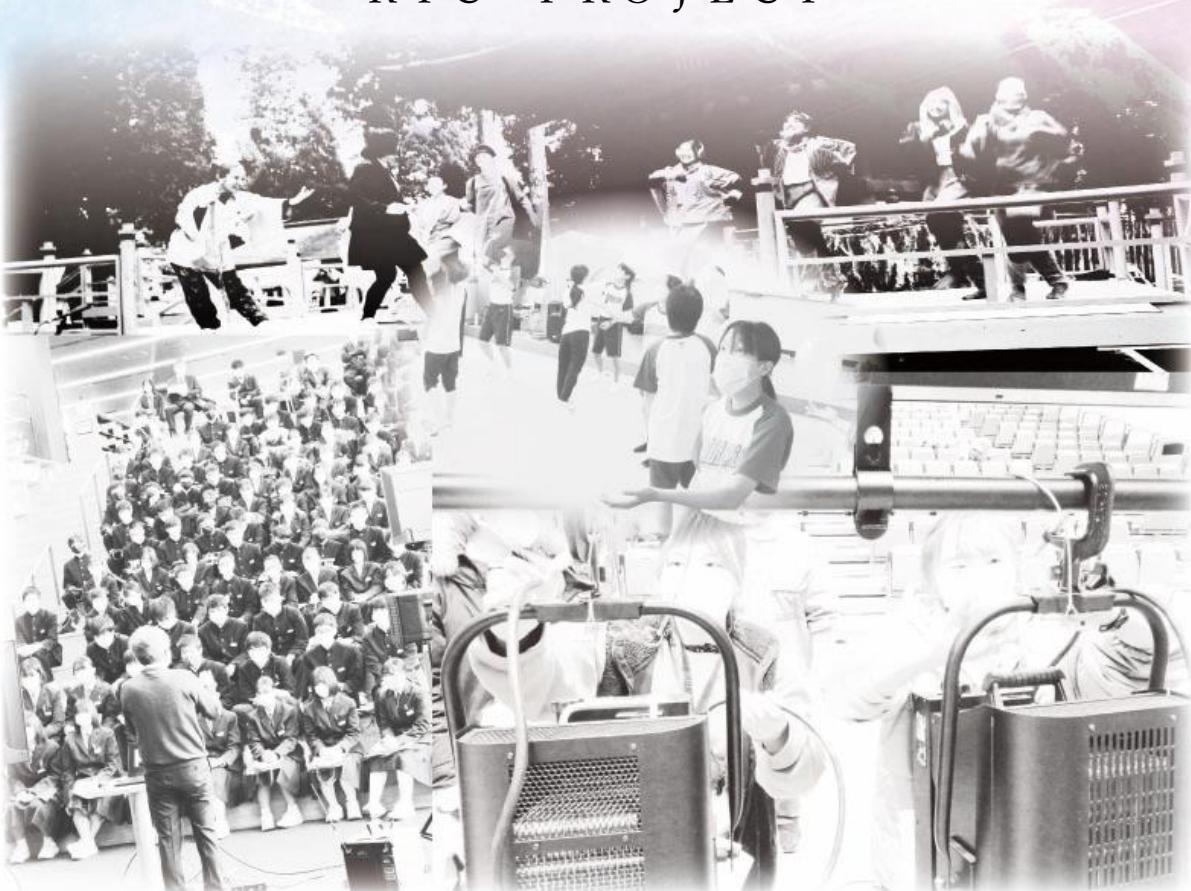




2022 年度
芸術文化観光専門職大学
地域連携事業報告書
R I C P R O J E C T



地域リサーチ&イノベーションセンター

A T
R T S & T O U R I S M

目次

RIC プロジェクト（地域連携事業）

		頁
1	全但馬地域	高校コミュニケーションワークショップ
2	豊岡市	豊岡市ジュニアブレカレッジ事業
3	豊岡市	豊岡市コミュニティ・ツーリズム推進事業
4	豊岡市	豊岡市多文化共生推進事業実施業務～外国にルーツを持つ子ども支援
5	豊岡市	道の駅「神鍋高原」最適化整備運営計画策定支援業務
6	養父市	名草神社保存修理工事完成記念イベント事業
7	朝来市	起業促進に向けたKOUBA の活用
8	朝来市	あさご芸術の森美術館イベント支援業務
9	朝来市	朝来市観光研修
10	朝来市	朝来市職員多文化共生研修
11	香美町	香美町地域連携業務～起業促進による香美町の活性化に向けて～
12	新温泉町	夢ホール運営等研修および人材育成事業
13	新温泉町	諸寄地区における観光産業活性化事業
14	新温泉町	観光・文化振興に向けたフィールドワーク事業
15	但馬広域行政事務組合	但馬管内の市町職員に対する研修業務（政策立案研修）
16	但馬広域農業団地運営協議会	新規就農希望者向けプランディングムービー制作
17	鉱石の道推進協議会	鉱石の道エリア将来計画策定事業
18	豊岡市商工会	地域マネジメントプラットフォームを軸にした神鍋エリア観光の機能強化事業
19	春日市ふれあい文化センター（福岡県）	「ふれぶんアートマネジメント講座《入門編》」
20	兵庫県	HYOGO e スポーツフェスタ in 城崎温泉パフォーマンス事業
21	但馬空港ターミナル（株）	但馬空港チャーター便お出迎え事業
22	公益社団法人 ひょうご観光本部	観光業界を目指す若者向けセミナー
23	兵庫県介護支援専門員協会 但馬支部豊岡市ブロック	介護支援専門員対象コミュニケーション研修事業
24	但馬観光協議会	但馬観光協議会と芸術文化観光専門職大学との連携事業
25	兵庫県但馬県民局	起業スタートアップ支援事業
26	公益財団法人 太平洋人材交流センター（PREX）	JICA 発展途上国向け訪日研修における協力事業
27	宝塚市	宝塚市との包括連携協定締結と平田学長講演（市職員・内定者向け）

CAT 地域貢献事業

1	CAT エクステンションセンター	開学記念フォーラム「社会的インテグレーションと芸術・文化×観光」	32
2	CAT エクステンションセンター	リカレント講座「但馬ストーク・アカデミー」	33
3	CAT エクステンションセンター	小中高大連携事業	34
4	CAT エクステンションセンター	生涯学習講座「CAT 市民公開講座」	36
5	CAT キャリアサポートセンター	企業・自治体向け CAT オープンキャンパス	37
6	CAT 学術情報館センター	パフォーミングライブリー第4回《但馬を記録する、但馬を創造する》	38
7	CAT 実習支援センター	パフォーミングアーツプロジェクト（PAP）	39

◆テーマ RIC プロジェクト「高校コミュニケーションワークショップ」

TAJIMA

◆メンバー

(本学教員)

☆石井 路子、☆杉山 至、☆田上 豊、☆平田 知之、☆山内 健司、姚 瑶

(非常勤講師)

井上 三奈子、酒井 美佳、☆高橋 智子、知念 史麻、中原 明子、☆福田 倫子、☆村井 まどか、森岡 望、山口 恵子
(50 音順、☆は主講師)

◆キーワード コミュニケーション教育 演劇的手法 但馬 3市 2町 高校

◆概要

但馬の高校生が持っている潜在的コミュニケーション能力を引き出すため、演劇的手法を用いてプログラムを開発した。具体的に今年度は「自己効力感（自分の表現が受容され、何かを変えることができる経験）を増やす」「自己検閲（自分の表現が受け入れられないなら黙っていようという意識）を減らす」ということを目的とした。互いの違いを尊重しながら、チームで意見を交換させて、正解のない想定外の課題を創造的に解決する力を養う。但馬 3市 2町の公私立高等学校・高等専修学校・特別支援学校 18 校において実施することにより、但馬地域のどの高校に進学してもコミュニケーション教育を受けられる環境が整っており、エリアとしてのシームレスなコミュニケーション能力向上に貢献した。



◆事業内容 (プログラムの流れ)

1. アイスブレイク (導入) → 安心して発言・活動できる場づくり、参加者の特性の把握
2. メインコンテンツ (展開) → 正解のない想定外の課題への取り組み、小集団でのディスカッション
3. リフレクション (振り返り) → 発表・全体共有、結果ではなく過程を省察

◆事業の様子

☆身体・ことばで関係を築く

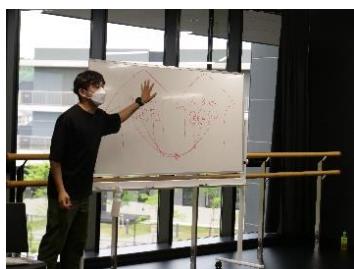


石井 路子 (ドラマティーチャー)



山内 健司 (俳優)

☆イメージを共有して創作する



田上 豊（演出家）



平田 知之（演劇教育史研究）



村井 まどか（俳優）

◆ワークショップ後の生徒の感想（抜粋）

- ・協力して自分たちで工夫しながら表現したのが印象的。
- ・相手への信頼が大きくなりました。すごくいい経験だったと思います。
- ・私はグループになって話すのが少し苦手だったけど、グループになった時しっかり友達の意見を聞いて少しでも自分の意見を言うことができたのでよかったです。
- ・自分では分からぬことでも他の人の意見を聞いて自分の考え方や発想が広がったりしたのでこれからもコミュニケーションを大切にしたいと思いました。
- ・最初は難しいことなんじゃないか、恥ずかしいことなんじゃないかなど不安な気持ちもあったけど、みんなで一つになれて、安心感もあつたし、楽しむことが大事ということがよく分かった。
- ・なにか大規模な考えを出すには色々な人の目線から物事を考える必要があると分かりました。
- ・今回のワークショップ中に何かしらのアクションを起こして自分から周りとコミュニケーションをとろうと取り組むことができました。
- ・コミュニケーションというのは簡単そうにみえてとても難しいものだと感じました。でも、しっかり考えて相手に伝わったりしたときはとてもうれしかったです。相手に伝えるということの楽しさが分かりました。
- ・コミュニケーションは言葉だけではないということが、今回のワークショップを通してよく分かりました。
- ・相手への信頼が大きくなりました！すごくいい経験だったと思います。

- ◆**テーマ RIC プロジェクト「豊岡市ジュニアプレカレッジ事業」**
- ◆**研究者 教授 平田 オリザ、講師 平田 知之、助教 田上 豊**
- ◆**キーワード 小中高大連携**
- ◆**概要**

TOYOOKA

豊岡市内の中学生が、高等教育機関である大学というものを知る機会を創出し、知的好奇心を高めることで、主体的な進路選択に対する動機付けにつなげるため模擬講義及び施設・授業見学を実施した。また、特別支援学校中学部生徒が、それぞれの特性に応じた自己の潜在的コミュニケーション能力を引き出し、人間関係形成能力を育むため、コミュニケーションワークショップを実施した。

市立中学 3 年生及び特別支援学校中学部、11 校：679 名を対象に実施。

◆事業内容

(1) 日程

日	時間	中学校名
10月17日（月）	13時40分～15時00分	豊岡南中学校
10月19日（水）	13時40分～15時00分	竹野中学校、日高西中学校
10月21日（金）	13時40分～15時00分	豊岡南中学校
10月31日（月）	13時40分～15時00分	港中学校、城崎中学校
11月15日（火）	10時00分～11時20分	出石中学校、但東中学校
11月16日（水）	10時00分～15時00分	豊岡北中学校、日高東中学校
11月25日（金）	10時00分～12時00分	出石特別支援学校中学部
1月24日（火）	10時00分～11時00分	豊岡聴覚特別支援学校中学部

(2) 模擬講義（約 30 分） 講師：平田オリザ学長

- ・芸術文化と観光を学ぶ意義 ・アートマネジメントとは
- ・大学入試改革及びこれからの社会で求められる力 ・芸術文化観光専門職大学の紹介

(3) 施設・授業見学（約 30 分） 約 20 名/班で学内見学（主に SA（学生アシスタント）が学内を案内）

«教育棟» 1 階： RIC、学術情報館、カフェ 2 階： ラーニングコモンズ

«実習棟» 1 階： 劇場、ホワイエ、小劇場、楽屋、大道具・小道具室

2 階：劇場、スタジオ 2 、更衣室、トレーニングルーム

(4) コミュニケーションワークショップ（約 1 時間） 講師：田上豊 平田知之

- ・演劇的手法を使ったコミュニケーションワークショップを実施



図 1 模擬講義の様子



図 2 コミュニケーションワークショップの様子

◆**テーマ RIC プロジェクト「豊岡市コミュニティ・ツーリズム推進事業」**

◆**研究者 准教授 高橋 伸佳**

TOYOOKA

◆**キーワード ヘルスケア、スポーツ、アウトドア、新しいライフスタイル、With コロナ・After コロナ**

◆**概要**

コロナ禍で生まれた価値観（健康志向、環境への配慮、自然志向）に対応した、リピーター、周遊・回遊、滞在につながる新たな大交流の仕組み・観光プログラムを開発する。

また、新規市場開拓のため、観光資源のコンテキスト転換を図り、拡大期にあるアウトドア、健康市場からの需要を取り込む施策に寄与するものとし、その可能性と方向性を探る取組みを展開する。

本事業は2年目となり、上記の事業概要に沿って具体的な取組みをスタートさせた。

◆**事業内容**

コミュニティ・ツーリズム事業の事業基盤の確立と事業始動

◆**成果**

1. ネオカル TOYOOKA のブランド基準マネジメント方針を策定・公開
2. ネオカル TOYOOKA の開発基準を策定・公開
3. ネオカル TOYOOKA の開発チェックシートを策定・公開
4. コミュニティ・ツーリズムにおけるプラットフォーム「ネオカル TOYOOKA」LP を開発・運用開始
5. SA（学生アシスタント）とともにプログラム方向性に関するプロトタイプを策定・発表
6. 記者発表会開催、プレスリリース発信（メディア掲載 20 本）
7. プログラムの事業者募集、審査会実施、販売開始



図 1. 記者会見の様子



図 2. SA によるプログラム実施の様子

Case Study
注目の事例

**産官学で挑む
豊岡市のネオカル**
健康社会つくるツーリズムの新たな手法

本報道資料は、これまでに実施された「産官学で挑む豊岡市のネオカル」の事例を紹介するものです。資料内の、筆者名や団体名等は、権利者の意思で文書を公表する場合としない、個人と組織とに差別なくアブストラクト表示のうえ、登録著作権の権利者である豊岡市と連携しての公表に、了承を得て掲載いたしました。

（株）アーバン・リサーチ

Case Study

豊岡市は、西日本屈指の健康地として高い評価を得ています。一方で、高齢化率が高く、少子高齢化問題が深刻化する一方で、高齢者層での健康問題が深刻化する傾向があります。そこで、豊岡市では、地域活性化と健康増進を目的とした「ネオカル」という新たなツーリズムモデルを構築しました。このモデルは、地域資源を活用した観光プログラムと、地域住民の健康促進活動を組み合わせたものです。具体的には、地域資源を活用した観光プログラムとしては、豊岡市内各地の温泉や山岳地帯での登山、川遊びなどの自然体験活動があります。また、地域住民の健康促進活動としては、高齢者向けのウォーキングやヨガ、筋力トレーニングなどの運動プログラムがあります。これらの取り組みを通じて、地域活性化と同時に、地域住民の健康増進が両輪で進んでいます。

また、豊岡市は、地域資源を活用した観光プログラムとしては、豊岡市内各地の温泉や山岳地帯での登山、川遊びなどの自然体験活動があります。また、地域住民の健康促進活動としては、高齢者向けのウォーキングやヨガ、筋力トレーニングなどの運動プログラムがあります。これらの取り組みを通じて、地域活性化と同時に、地域住民の健康増進が両輪で進んでいます。

（株）アーバン・リサーチ

図 3. メディア掲載例（トラベルジャーナル）

◆**テーマ** RIC プロジェクト「豊岡市多文化共生推進事業実施業務：
母語・継承語支援の調査研究と実践～外国にルーツを持つ子どもの支援」

TOYOOKA

◆**研究者** 講師 姚 瑶

◆**キーワード** 多文化共生、母語継承語、アイデンティティ、外国にルーツを持つ子ども

◆**概要**

近年、豊岡市の外国人市民(外国人住民及び外国にルーツを持つ人)は増加傾向にある。「多様性を受け入れ、支え合うリベラルなまちづくり」を推進するため、外国にルーツを持つ子どもを対象に母語・継承語(親の母語)、母文化を学ぶ機会を提供し、自己のアイデンティティの確立を促すとともに、お互いの文化や生活習慣の違いを尊重できる人材を育成する。

◆**事業内容**

1. 外国にルーツを持つ子ども及び外国人親のニーズ調査を実施
2. 先進事例調査を実施
3. 中国にルーツを持つ子ども及び外国人親を対象に、講座やワークショップを実施

◆**成果**

- ①外国ルーツの子どもを持つ外国人親を対象に、「豊岡市外国人市民に関する調査」(日本語版、中国語版、英語版)を行った
- ②神戸市、名古屋市、飯田市で先進事例調査を行った
- ③「中国語と中国文化を楽しもう」講座を開催(合計7回)

事業実施

- ・「中国語と中国文化を楽しもう」講座＆ワークショップ 参加者数 125人 (7回合計)



図1.中国の遊びを楽しむ様子



図2.中国語で絵本読み聞かせの様子

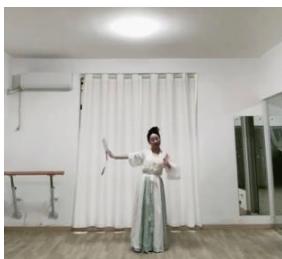


図3.中国舞踊を指導する様子



図4.中国文化演劇ワークショップの様子



図5.春節切り紙制作の様子

◆テーマ **RICプロジェクト「道の駅『神鍋高原』最適化整備運営計画策定支援業務」**

◆研究者 准教授 高橋 伸佳

◆キーワード 機能の最適化・長寿命化、未来志向、持続可能性

◆概要

道の駅「神鍋高原」について、地域との連携の充実や神鍋高原の窓口としての役割に対する期待が市民から寄せられている。また、道の駅がこれまで以上に「おもてなしの中核施設」として、観光客の長期滞在や地域への消費を促すことが求められる中、最適化整備運営計画の策定を支援する。

TOYOOKA

◆事業内容

1. 道の駅の課題の検討及び整理
2. 道の駅を含む神鍋高原の状況把握及び整理
3. 先進事例の調査（SA（学生アシスタント）参加）
4. 関係者ヒアリング（SA参加）
5. 道の駅を考えるワークショップ（SA参加）
6. 計画案に対する監修及び執筆等の支援

◆成果

- ①道の駅「神鍋高原」に関する事業環境の把握及び整理
- ②道の駅「神鍋高原」に関する市民や事業者の要望の把握及び整理
- ③計画案に資する基礎資料（2023年度は策定委員会開催予定：委員長就任予定）



図 1. 先進事例調査の様子



図 2.ワークショップの様子①(市民・SA で議論)



図 3.ワークショップの様子②(SA が発表)

◆**テーマ RICプロジェクト「名草神社保存修理工事完成記念イベント事業」**

◆**研究者** 准教授 杉山 至、助教 田上 豊

◆**キーワード** 演劇、舞台芸術、文化アーカイブ、歴史

◆**概要**

養父市八鹿町にある国指定重要文化財の名草神社本殿と拝殿の保存修理工事が完成したことを記念する式典のイベントにおいて、芸術文化観光専門職大学のもつ特性を活かし、名草神社を芸術文化・観光の観点から調査した上で演劇の制作披露を行うことで養父市の地域活性化に寄与する。

◆**事業内容**

1. イベント設営
2. イベントステージ進行
3. 演劇制作及び披露(45分の演劇1本)

◆**事業行程**

令和4年6月初旬 事業スタート

令和4年6月下旬 名草神社下見①

令和4年7月上旬 キャスト決定→脚本着手

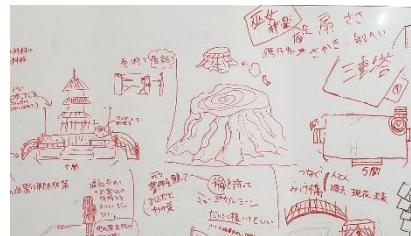
令和4年7月下旬 脚本作成に係る史実の認識について研究

令和4年8月初旬 イベントタイトル決定『NAGUSAI～山の上の芸術祭～』

令和4年8月中旬 脚本初稿完成

令和4年8月下旬 配役決定→稽古着手

令和4年9月中旬 舞台美術プラン決定（舞台・小道具・衣裳）



令和4年9月下旬 MC台本初稿完成

令和4年10月初旬 製作、稽古着手、名草神社下見②



令和4年10月中旬 舞台美術等製作、リハーサル



令和4年10月22日 設営、ゲネプロ



令和4年10月23日 本番



◆成果

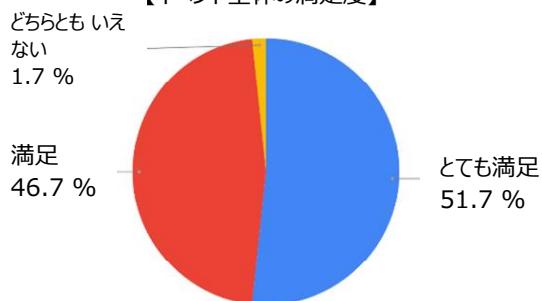
- ①国指定重要文化財名草神社保存修理完成式イベント「NAGUSAI」のステージ進行
- ②上記イベント内で構成劇「わすれなぐさ」披露

「NAGUSAI～山の上の芸術祭～」
令和4年10月23日（日）11:00～15:00
当日来場者数約200名

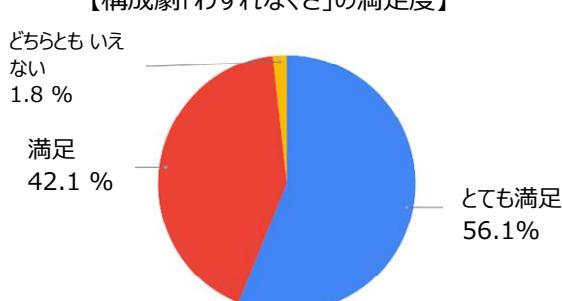
☆来場者の感想(一部抜粋)

- ・若さが良かった。劇と名草神社三重塔とのつながりがとても良かった。やさしかった。親切でした。
- ・元気いっぱいの感動でこれからが楽しみです。
- ・一人一人の個性を活かしたシーンがあって、とてもおもしろかったです。演劇・音楽・ダンス・裏方、全てすばらしいです！！
- ・神社の歴史を知らない人でもよく理解できました。子供が演劇を楽しそうに見ていました。演劇のきっかけを身近に感じられる良い機会になりました。また観に行きたいです。
- ・地域創生がんばって下さい。とても楽しかったです。

【イベント全体の満足度】



【構成劇「わすれなぐさ」の満足度】



◆**テーマ** **RIC プロジェクト「起業促進に向けた KOUBA の活用」**

ASAGO

◆**研究者** 助教 中村 嘉雄、助手 辻村 謙一、准教授 杉山 至

◆**キーワード** 人口減少、少子・高齢化、起業・創業、移住・定住、新産業創出、地域活性化

◆**概要**

朝来市は、2017 年に起業人財交流拠点「ASA Going Garden KOUBA」（以下「KOUBA」という）を開設した。その目的は、起業を促進することにより移住者が増え、地域が活性化することにある。

「KOUBA」を拠点とする起業や移住者を増やすためのイベント、4 つの事業（調査研究、制作、提案）を実施した。

◆**事業内容**

1. 経営支援・入居支援

「KOUBA」の活用方法を探るために、コワーキング施設「ひょうご企業プラザ」への視察を行った。また、「KOUBA」への入居申し込みがあったため、入居申し込み者の審査及び面談、助言を行った。

2. 移住希望者との交流イベント

朝来市への移住・定住・起業・創業を検討している人を対象に 2022 年 12 月 11 日（日）に交流イベント「施設見学会」を実施した。

参加者は京都市、加西市、太子町と遠方からお越しいただき、「KOUBA」ほか市内の施設を見学した。また、受入れ側として、本学学生をはじめ地元自治協議会や「KOUBA」への入居予定者など、延べ 25 名が参加し交流を行った。

参加者の中には、既に企業経営している方や大学教員を間もなく退官する方などがおられ、朝来市の魅力に触れる機会となった。

移住者の先輩である地域おこし協力隊の鹿肉加工施設を見学したり、観光地竹田にある立雲峡の景色を堪能し、市の体験住宅も見学した。



「KOUBA」入口看板



おもてなしの料理をつくる学生



交流風景



鹿肉加工施設を見学する参加者

3.「KOUBA」入居者へのヒアリング

「KOUBA」入居者がどのようなことを行政や地域に求めているかについて、調査を行った。

ヒアリングにより、集客に苦労していること、起業に関する専門知識やノウハウを有している相談者がいないことが明らかとなった。

項目	朝来市（行政）	地域住民（意識）
竹田地域の過疎化	・空き家の活用などで地域活性化	・そもそも居心地のいいまちでありたい
観光地としての竹田	・朝来市全体の歴史的遺産を活用 ・地域の特性を活かしたイベント ・交通の利便性の向上	・観光客向けの施設が少ない ・宿泊施設は常に満室の理由を追求すべき
“KOUBA”的存在	・起業に向けて事業者のスタートアップや多くの方々との交流を支援するための施設	・市の針がわからない ・観光協会と連携がない ・地域に根ざしているとは言えない
これから“KOUBA”	・“KOUBA”で活動する事業者と地域の関わりを増やす取組が必要 ・入居者募集の方法を検討	・竹田地域ならではの施設であってほしい



ヒアリングの様子

(出典：筆者作成)

4.「KOUBA」施設整備

学生のアイディアを活かした天井画の制作を行った。併せて、施設玄関入口の床板の塗装を行うなどの整備を実施した。

天井画のデザインは、「KOUBA」がインキュベーション施設であることをコンセプトとして制作した。

鳳凰は朝来市に関わことがあること、吉兆を報せる鳥であること、再生する性質を持つことから、羽化し幸運を運び羽ばたいていくイメージを表し、桜は朝来市の花であること、門出を象徴する花であることからモチーフとして採用した。また、金銀の光の渦は、鳳凰の再生の光を巻き込みながら銀の馬車道に繋がっていくイメージを表している。



朝来市ゆかりのモチーフによる天井画



設置後の玄関の天井

◆成果

◆地方における起業の促進策について行政に提案

- ・起業後、持続・継続するためには、起業後に企業価値を向上させていく必要があり、経営に関する知識の少ない人に対して商工会等の伴走型支援が重要であることがわかった。
- ・創業後「5年の壁」といわれる融資の据え置き期間が終了し返済が始まても倒産するリスクを回避できるよう、支援する体制づくりが必要となる。
- ・このように地域に密着した起業を促進していく「ヒト・モノ・カネ」の仕組みを構築することにより中小企業が継続して存立し、地域経済が活性化するのである。そのためには、「KOUBA」という起業をキーワードにした拠点が既に存在しているので、そこに外部人材や専門人材を有効に活用することが重要である。
- ・そして、ヒアリングより、入居者個々の販路開拓も必要であるが、KOUBAへの集客効果を発揮するイベントが最も必要であることが判明した。行政のバックアップが必要とされる。

◆**テーマ RIC プロジェクト「あさご芸術の森美術館イベント支援業務」**

ASAGO

◆**研究者 准教授 杉山 至、助手 辻村 謙一**

◆**キーワード** 舞台美術、制作

◆**概要**

朝来市立「あさご芸術の森美術館」は、文化功労者である淀井敏夫氏の生涯作品を収蔵しており、野外彫刻公園と屋内美術館によって構成される芸術空間である。

例年開催している美術館主催のイベントにおいて、来場者の芸術文化への興味関心、文化意識の醸成を図る取組として、イベントの支援を実施した。

◆**事業内容**

1.風と光のページェント（キャンドルイベント）

フローティングキャンドルを使用したアーチオブジェの制作

橋というデザインは本イベントがハロウィン関連イベントのため、死者や異界との接合、再会ということをテーマに南米の死者を迎える祭に見られる橋のイメージ・アイデアをベースとした。

立体的な形にすることで、観客が渡ることができ、登って降りるという身体的な3次元移動がもたらすシークエンスの変化が生まれるとともに、高い視点、見晴らしを確保するとともに、登ってきた橋の中央にアーチを設置し、垂直方向にもキャンドルを設置し、フォトスポットにもなるような設計とした。

2.アートマーケット

遊具オブジェによるイベントブース出展

オブジェは子供から大人まで楽しめる遊具であると同時に身体的な知覚を刺激し、何度もトライしてみたいとなるよう、デジタルネイティブな子供にとってもバス（通路）や角度といった空間の認知に偶然性等を加味した空間装置的な遊具とした。

◆**成果**

イベントを通してのあさご芸術の森美術館の価値の向上及び芸術文化意識の醸成



図1. アーチオブジェ



図2. 遊具オブジェによるイベントブース出展

◆**テーマ RIC プロジェクト「朝来市観光研修」**

ASAGO

◆**研究者 准教授 高橋 伸佳**

◆**キーワード 観光振興、観光分野におけるアクションプラン、着地型観光**

◆**概要**

多様化する観光ニーズに対応するべく、観光事業の現状を知り、職員一人ひとりが朝来市観光の将来像を考える機会とともに、朝来市が一体となって観光振興に取り組めるような組織を目指し本研修を実施した。

◆**事業内容**

①研修内容の策定に係る朝来市等職員の事前調査

実施日：令和5年2月9日、2月26日

内 容：朝来市役所、及び同観光協会における課題や職員の認識を把握するため、全職員のヒアリングを実施することとした。また、研修実施に活用するため、職員に対する事前レポートを依頼。



図1 朝来市観光交流課ヒアリング



図2 朝来市観光協会ヒアリング

②朝来市観光研修

実施日：令和5年3月23日

内 容：観光産業を取り巻く現状と課題、可能性の最新事情を学んでいただくとともに、今後の観光施策の立案・実施に向けた共通認識の共有を目指した。また、市職員、観光協会の垣根を少しでも低くすることを目的に、企画作業を通じてお互いの課題感やモチベーションを知る機会をつくり、今後の朝来市の観光行政推進の活性化につなげることを目指した。



図1 研修の様子



図2 グループディスカッション



図3 参加者プレゼンテーション

◆成果

<所見>

- ・本事業については、職員の観光行政に対する認識や理解に大きな差があると仮説をもって臨んでいたが、事前調査を通じて職員の率直な意見をヒアリングすると、朝来市の観光に対する課題感や人材育成の必要性、PR不足の点など基本的な部分においてはほぼ共通していた。
- ・研修本番においては、市役所と観光協会の職員が交流しながら、活発で前向きな意見交換が行われた。会場からは日々の業務に追われ、本研修のような議論は初めて経験したとの声が複数聞かれた。

<課題>

- ・竹田城跡を中心とした朝来市観光コンテンツの捉え方、メインターゲット、情報発信の在り方、観光協会の今後の在り方や時間軸については二分した考えを職員が抱いていることがわかった。
- ・特に観光協会の今後の在り方については、事業実施・推進の根幹に関わる問題である。

<来年度に向けて>

- ・課題にあげたような二分した考え方や優先順位について両組織内やステークホルダーですり合わせ、市役所、観光協会双方が一定の共通認識を持ったうえで仮説となる戦略を構築しておくことが求められる。
- ・本研修は観光を取巻く最新事情と朝来市観光行政の課題感の共通認識を持つことに主眼をおいて実施したものであった。また、市役所、観光協会職員のチームビルディングの目的もあった。この点、これら目的はある意味達成したと考えられる。今後は、大阪・関西万博等、明確なテーマを設定し、未来に向けた朝来市の観光の課題解決やコンテンツ開発に具体的に取り組んでいく必要があると考えられる。

◆**テーマ RIC プロジェクト「朝来市職員多文化共生研修」**

◆**研究者 講師 姚 瑶**

◆**キーワード 多文化共生、地域における日本語教育、外国人受け入れ**

◆**概要**

1990 年代以降、外国人住民の数が急激に増加し、2022 年 6 月末には在留外国人数が約 290 万人となり、今後更なる増加も予想されることから、外国人住民施策が全国的な課題となりつつある。そのため、総務省では、国籍などの異なる人々が、互いの文化的差異を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく、「地域における多文化共生」を地域の国際化の第 3 の柱として推進するため、地方公共団体における多文化共生の推進に係る指針・計画の策定に資するよう「地域における多文化共生推進プラン」を策定し、多くの地方公共団体においてこのプランをモデルに多文化共生の指針・計画が策定され、地域における多文化共生施策が推進されている。こうした状況を踏まえ、多文化共生の重要性や必要性、また、自治体として外国人に対する日本語教育をどのように進めるべきか、またどこまでやればよいのかなどについて、共通認識を持つことを目的として本研修を実施した。

◆**事業内容**

朝来市職員を対象に研修を実施（参加者数 8 人）

◆**成果**

- (1) 外国人受け入れの現状と問題点の共有
- (2) 多文化共生推進に必要な知識の習得
- (3) 外国人住民に対する支援策の議論
- (4) 地域における日本語教育への提言

◆**研修会の様子**



図 1 . グループディスカッションの様子



図 2 . 参加者によるプレゼンテーション



図 3 . 研修の様子

◆テーマ **RIC プロジェクト「香美町地域連携業務」**
～起業促進による香美町の活性化に向けて～

KAMI

◆研究者 助教 中村 嘉雄

◆キーワード 人口減少、少子・高齢化、起業・創業、移住・定住、新産業創出、地域活性化

◆概要

町内の起業・創業を包括的に支援する施策の展開のため、観光・文化・産業並びに町民意識等の地域特性について調査・分析を行い、香美町に適した起業・創業や新たな分野への事業展開等を検討した。本事業は、令和3年度より取り組んでおり、「起業・創業」を軸とした香美町の地域活性化策・具体的な取組の検討について事業を実施した。

◆事業内容

1.起業ヒアリング調査（1年目）

香美町、同商工会の協力を得て、直近5年間に香美町内で創業した企業等10社を選定した。

【選定企業】キャンプ場、企業農家、飲食店、ゲストハウス、獣医業、福祉施設等

【主なヒアリング項目】
・香美町についての印象、立地条件 等

・開業の時期、業種、起業する際に苦労した点 等

・開業時と現在の比較、求める行政施策、事業を運営する際の相談先 等

2.町民アンケート調査（2年目）

【調査の対象】香美町の住民の内、ランダムに500人を抽出し実施した。143人回答（28.6%）

《 強み 》	《 弱み 》
・競合他社が少ない	・人付き合いが難しい地域
・土地の価格や賃料が安い	・移住者を受け入れる意識が薄い
・先行者利益を得やすい環境	・旧町の意識を引きずっている
・海が近い	・価格面が、外的要因で左右される
・アウトドアに最適な土地	・手続等の施設がわからない
・特産品が豊富にある（美味しい）	・寒暖差が激しい
・四季の魅力が味わえる	・農業の耕作放棄地がある
・時間がゆっくり流れる	・開業後のサポートがない
・観光客を誘引する可能性がある	・安く貸してもらえる場所がない
・空き家が多い	・空き家が多い
・人が優しく、住みやすい	・交通が不便
・みんなが見守る地域	・観光客向けの交通手段が少ない

【回答者の年齢】80才代（24.5%）が最も多く、30才代（21.7%）、70才代（19.6%）と続いている。

【居住地区】香住区（66.2%）が最も多く、村岡区（26.1%）、小代区（7.7%）と続いている。

【回答者の職業】会社員（28.2%）が最も多く、専業主婦（16.2%）や公務員（13.4%）と続いている。

（回答抜粋）

Q. 起業・創業に最も期待することは何ですか。

町の活性化（51.7%）、雇用の場の創出（29.4%）

Q. 起業・創業に最も心配することは何ですか。

地元企業の衰退（37.4%）、町の雰囲気の変化（27.6%）、交通量の増加（10.6%）

◆成果

①香美町行政への施策提案

ヒアリング調査、アンケート調査を踏まえ、香美町（地方）において、起業を促進するために必要な行政施策は「**ヒト、モノ、カネ、情報**」という**4つの経営資源**である。

ヒト＝キーパーソンとなる起業コンシェルジュの設置、モノ＝起業拠点づくり

カネ＝ベンチャー基金の創設、情報＝後継者不在企業と起業希望者のマッチング

(1) 起業コンシェルジュ（コーディネーター）の設置

経営に関する専門的知識を有する起業コンシェルジュを設置し、経営知識の少ない起業者へワンストップでアドバイスすることにより、起業しやすい環境を整える。

(2) 「起業拠点の整備」

起業拠点となる施設を設置し、低費用で実験的に起業する場所を提供することで、起業しやすい環境を整える。起業拠点の設置により、多くの起業者が集うことで、町内外の人々の交流が生まれ、地域の活性化も期待される。

(3) 「香美町版ベンチャー基金」の創設（起業資金の調達）

行政が中心となり「香美町版ベンチャー基金」を創設し、地元企業や住民のほか、ふるさと納税の活用等 幅広く資金を調達し、起業時に必要となる資金として投資することで、起業を支援する環境を整備する。

(4) 後継者不在の企業と起業希望者のマッチング

地方で起業・創業したい若い人たちが増えている中、資金力や販路開拓が厳しい起業希望者の現状を後継者不在の企業とマッチングさせることで解消し、併せて老舗企業の廃業を未然に防ぐことが出来る。そのためには、双方の情報を収集・蓄積し、条件が合致するところを見出し、仲介役を果たす仕組みを構築する。

②町民を対象とした報告会の実施

2年間の調査・研究活動の成果を、広く町民へ周知するため、報告会を実施した。

(1) 町民の意識の醸成

起業によるベンチャーブームで若者リターンや移住者を増やして香美町を活性化するか、人口減少をそのまま放置し、将来衰退していく道を選ぶか、どちらを選択するか重要な時期となっている。

(2) 優先順位を付けた取組

香美町ならではの地域活性化に向けたフィールドづくりの提案を報告会で行ったが、すべてを一度に行なうことは難しいと思われる。優先順位を付けて、可能なものから順次実施していくのが望ましい。



図.最終報告会の様子

◆**テーマ RIC プロジェクト「夢ホール運営等研修および人材育成事業」**

◆**研究者 准教授 杉山 至、准教授 尾西 教彰、講師 近藤 のぞみ**

◆**キーワード 公共ホール、地域、オペレータークラブ、舞台美術、人材育成、制作、音響・照明**

◆**概要**

新温泉町の文化施設「夢ホール」で活躍する舞台技術のオペレーター人材を養成するとともに、地域の人々と学生が一緒に作品をつくることで地域を（再）発見し、舞台作品制作の面白さを体験する。また、企画運営担当の人材育成も目的とし、夢ホールの町民への周知やイベント開催について学ぶことで、町民から愛される施設作りを目指す。

◆**事業内容**

- (1) 「夢ホール」の舞台および音響・照明を使用した講習会の実施
- (2) 文化施設運営、文化事業の企画立案にむけた人材育成講習
- (3) 地域の文化要素を取り入れながら、学んだ技術をつかって小作品を創作し発表
- (4) 学生参加者と地域住民・運営スタッフとの交流促進

◆**成果**

新温泉町の「温泉八景」を題材にした小作品の制作と発表と講習を受講することにより、夢ホールの新たな利用方法について、参加者よりアイデアが見受けられた。

学生の参加により、地域住民との交流促進につながり、コミュニケーションを取る姿や他事業への波及など、様々なつながりが感じられた。

実施プログラム

内容	講師	開催日
開講式・舞台美術ワークショップ	杉山至准教授	9/11 終日
制作講習（施設運営・おもてなし）	尾西教彰准教授	10/9 午前
制作講習（企画・広報）	近藤のぞみ講師	10/9 午後
舞台美術講習	杉山至准教授	10/16 終日
音響講習	ヤマハサウンドシステム(株)	10/29 午前
照明講習	生田正（照明家）	10/29 午後
修了検定（ショーアイント）	杉山・尾西・近藤・生田	11/5 終日



図 1. 照明講習の様子



図 2. 舞台美術講習の様子

◆**テーマ RIC プロジェクト「諸寄地区における観光産業活性化事業」**

◆**研究者 助教 中村 敏、助手 辻村 謙一**

◆**キーワード 日本遺産、北前船寄港地、産学官 + 地域住民、地域活性化**

◆**概要**

「北前船寄港地・船主集落」として日本遺産の認定を受けた新温泉町諸寄地区にて、観光地としての発展を目指すため本学教員を派遣し、産学官 + 地域住民で連携を図り、地域活性化の活動や経済循環を基軸とした観光地づくりを目指す。

◆**事業内容**

- (1) 諸寄活性化委員会への参加
- (2) 日本遺産活用へ向けた協議
- (3) 今後の取り組みや活動へ向けた助言・提言
- (4) 北前船寄港地まつりへの参加

◆**成果**

「日本遺産を活かした取り組みについての現状分析」「今後の在り方」等について、地元住民と教員で意識共有を図り、助言・提言を行った。昨年、コロナ渦で参加が叶わなかった、北前船寄港地まつりへ参加し、地域住民と協働した取組を実現した。

◆**テーマ RIC プロジェクト「観光・文化振興に向けたフィールドワーク事業」**

◆**研究者 准教授 藤本 悠**

◆**キーワード 観光・文化資源、文化財、関係人口**

◆**概要**

新温泉町釜屋地区において、地域に滞在する観光・文化資源の発掘を目指し、本学教員及び学生によるフィールドワークを実施する。

また、地域住民との交流を通じ、新温泉町における関係人口の増加も目指す。

◆**事業内容**

- (1) 地域内のフィールドワーク
- (2) 観光資源・文化資源の調査
- (3) 現代技術を用いた、資料のアーカイブ化
- (4) 地域内行事への参加

◆**成果**

地域で昔から続く伝統ある行事、取組等を聞き取り調査し、現代でどのように残していくか地元住民と意見交換を行った。また、地域内での行事へも参加した。

地域に眠る文化資源、資料等を現代の技術を用い、アーカイブ化に取り組んだ。



図 1：北前船寄港地まつりへの参加



図 2：釜屋地区での作業風景

◆**テーマ RIC プロジェクト「但馬管内の市町職員に対する研修業務（政策立案研修）」**

◆**研究者 教授 山中 俊之、准教授 杉山 至**

◆**キーワード 政策立案、市民ニーズ、コミュニケーションデザイン、ロジカルシンキング、シナリオプランニング**

◆**概要**

市民ニーズをとらえ、バランスよく、かつ的確に対応するために必要な政策作りの考え方や手法を学ぶことを目的とし、但馬地域 3 市 2 町の職員を対象とした政策立案研修を実施した。

◆**事業内容**

(1) 政策立案研修 I

【対象者】各市町の 20 代～30 代で、勤務年数が概ね 5 年以上の係長級までの職員

【研修内容】①政策立案において必要な視点 ②市民ニーズの捉え方③ロジカルシンキング ④コミュニケーションデザイン 等について、日帰りでの研修を 3 日間実施し、最終日に各班プレゼンテーションを実施した。

【参加人数】12名

(2) 政策立案研修 II

【対象者】各市町の係長級以上の監督職員

【研修内容】①政策立案において必要な視点 ②コミュニケーションデザイン ③シナリオプランニング 等について、日帰りでの研修を 2 日間実施し、最終日に各班プレゼンテーションを実施した。

【参加人数】9名

◆**成果**

(アンケート回答より抜粋)

- ・普段意識できない、但馬地域全体を考える良い機会となった。
- ・現状について深く考え、創造する方法、感覚をつかめた。
- ・異なるキーワードを組み合わせる発見を実際にやってみることで、思考の柔軟性も重要であることが分かった。
- ・今までにないアプローチで、政策立案以外でも役に立ちそうであった。
- ・パフォーミングアートを通じて政策を立案していくことを学べた。
- ・シナリオプランニングの考え方に基づく未来予想型の政策立案は、実務においても大変参考となった。
- ・別の方の受けとる印象が全く異なることが分かり、物事を考える際の思考法を学べた。
- ・モノ事の考え方について、多方面から視ることができるきっかけとなり、大変有意義だった。



図 1 : 山中教授による講義の様子



図 2 : 杉山准教授による講義の様子

◆**テーマ RIC プロジェクト「新規就農希望者向けプランディングムービー制作」**

◆**研究者 助教 河村 竜也**

◆**キーワード 就業促進、コウノトリ育む米、但馬牛、動画**

TAJIMA
KOUIKI
EINOU

◆**概要**

但馬地域は兵庫県の農地の約 15%にあたる約 1.8 万 ha の農地を有し、農業産出額も 15%を占める主要な農畜産業の生産地帯である。

しかし、近年農村では過疎化や高齢化等に伴う農業の担い手不足が顕著となっており、農地のみならず集落機能の維持すら危ぶまれる地域がある。

また、農畜産業には旧来の 3 K イメージがあり、女性比率は極めて低い。

このままでは但馬地域の農畜産業は衰退し、農村や農地の保全が難しくなるため、農畜産業の魅力の発掘、3 K イメージの払拭方法を検討し、若者や女性が農畜産業を職業として選びたくなるような PR 動画を作成する。

◆**事業内容**

新規就農希望者に訴求するプランディングムービー(PR 動画)の作成に基づく作業

1.事業者へのヒアリング調査等による農畜産業の実情と取り組みの把握

2.各種調査・検証（活用資源調査等）

3.成果品の作成（動画の撮影・編集）

◆**成果**

短編動画 制作 形式 mp4

◆**YouTube url**

<https://youtu.be/4pS8inVNZOE>



図 1. YouTube の画面



図 2. YouTube の画面

◆**テーマ RICプロジェクト「鉱石の道エリア将来計画策定事業」**

◆**研究者 教授 山中 俊之、准教授 藤本 悠、講師 石井 路子**

◆**キーワード 鉱石の道、地域活性化、産業振興、観光振興、地域連携、日本遺産**

◆**概要**

鉱石の道を構成する明延、神子畠、中瀬、生野のそれぞれの地域において、地域住民や自治体関係者等とのヒアリング調査やワークショップを行い、課題を整理するとともに、地域の魅力を再発見することで地域の活性化に繋がる将来計画の策定に寄与した。

◆**事業内容**

- (1) 兵庫県但馬県民局及び地域団体などと協議し、各地域のグランドデザイン・アクションプラン（現状把握・取組方針）の作成に向けての方向性について検討を行った。
- (2) 明延鉱山、神子畠選鉱所、中瀬金山、生野銀山の4地区において、各地域の視察の後、地域住民・団体、但馬県民局、構成市、本学教員が出席して、課題と地域活性化の方策についてワークショップを開催した。
- (3) 上記ワークショップを基に、但馬県民局及び構成市、地域団体がグランドデザインの案を作成し、本学教員のコメントを踏まえ策定した。

◆**成果**

明延、神子畠、中瀬、生野の4地区におけるヒアリング調査を経て、それぞれの地域の課題を整理し、鉱石の道エリア将来計画のグランドデザイン・アクションプラン（現状把握・取組方針）の策定に向けて貢献した。今回の事業では、各地域の共通の課題として、少子高齢化が深刻な状況になっており、地域おこし協力隊やIターン移住者への期待についても限定的であることが分かった。一方で、地域ごとの個性も大きく異なり、観光客の誘致も含めて、ビジネスモデルの確立に向かっている地域もあれば、鉱石の道に関わる事業を地域コミュニティの活性化の手段として考えている地域など、必ずしも、同じ方向性を向いていないという事実も明らかになった。

また、今回の事業を通しては、歴史文化に関する客観的な事実が十分に整理されていないという問題や、宿泊施設やサイクリングロードや駐車場といったインフラ面での整備が追い付いていないという問題、インバウンドの誘致に向けては外国人の受け入れ態勢が十分に整っていないことも明らかになった。これらの点については、各地域の自治体の取り組みに加えて、専門職大学が学術的な視点から関与できる余地があると考えられる。

今後は、今回の事業を通して明らかになった課題に対して、具体的な取り組みを支援するとともに、持続可能な地域づくりを実現するために但馬県民局および地域団体と協力していきたい。



図1.明延地区でのワークショップ



図2.生野地区視察の様子

◆**テーマ** RIC プロジェクト 「地域マネジメントプラットフォームを軸にした
神鍋エリア観光の機能強化事業」

TOYOOKA
SHOUKOUKAI

◆**研究者** 教授 佐藤 善信、講師 野津 直樹、助教 中村 嘉雄

◆**キーワード** 体験型観光、新たなモビリティの開発、マーケティング、ブランディング

◆**概要**

兵庫県豊岡市日高町の神鍋高原エリアでは、“泊”+“食”+“遊”的地域交流型の観光コンテンツをつなげ提供する組織「地域マネジメントプラットフォーム」が立ち上がり、各々扱っている観光情報の発信や集客拡大、地域の魅力アップへ向けたマーケティングを行うため、観光客の行動・消費の更なる増加へ向けたデータ活用ができる仕組みの構築を検討し、これらの仕組みが機能することで、エリア内の消費拡大、また周辺エリアとのつなぎの為の新たな仕掛け等の提案も可能となり、神鍋高原エリアを軸に、観光で稼げる地域となることを目指す。

◆**事業内容**

地域マネジメントプラットフォームを軸に、グリーンシーズンで提供できる新たに開発された体験型メニューを教員や学生等が体験、評価し、マーケティング・プランを提案とし報告した。

・事業推進に係る打ち合わせ・全体会議の実施

・学生によるモニターツアー・体験メニューへのモニター参加、追加調査

・事業提案に向け検討会、意見交換会の実施

・事業報告会（1月 26 日、13：30～16：00）

◆**成果及び今後の展開**

・学生によるモニターツアー・体験を踏まえた提案を受け、神鍋地域の参加企業から「ヨソモノ ワカモノ バカモノ」という観点によるアイディアが生まれ、とても参考になったと喜んでもらえた。

・豊岡市商工会や行政等に対し、神鍋エリアの観光についての提案や新たなモビリティの活用による観光ルート開発に向けた提言も行うことができた。

・学生の観光施策に関する学びの場を提供することができ、将来の就職活動に役立つ取り組みとなった。

・今後は、神鍋の地域資源を活用したブランディング戦略での差別化のため、理論構築を行なってゆく。

◆**学生によるモニターツアー・体験メニューへのモニター参加の様子**



火起こしに大苦戦！



田んぼにて収穫体験

EV モビリティを使った神鍋高原のポイント巡り

◆**テーマ RICプロジェクト「ふれぶんアートマネジメント講座《入門編》」**

KASUGA

◆**研究者 教授 古賀 弥生**

◆**キーワード アートマネジメント、人材育成、アートと社会・地域**

◆**概要**

福岡県春日市にある「春日市ふれあい文化センター」において、地域社会と芸術文化をつなぐ活動の担い手を育成する講座を開催した。今回は、5年計画の初年度として「入門編」を実施し、アートマネジメントの概念に関する基本的な知識を修得する講座や、地域社会と関わる芸術文化活動の事例紹介のほか、医療分野に働きかけるダンスの事例を学ぶため、ワークショップを実施した。これらを通じて、参加者のグループワークから「想い」を「実践」につなげる後押しを行った。

◆**事業内容**

1.アートマネジメントの概念及び地域社会と関わる芸術

文化活動に関するレクチャー担当：古賀教授

講義①社会と芸術文化をつなぐ「アートマネジメント」基本の「き」

講義②「アートマネジメント」で思いをカタチにするために

2.パーキンソン病患者のためのダンス活動を体験するワークショップ

担当：ダンスアーティスト マニシア氏

(一社)パラダンス代表理事 野中香織氏

3.参加者によるグループワーク

4.5年間の講座企画に関する助言

◆**成果**

1.定員 20名のところ、26名の参加申込（当日参加はコロナ感染等の影響があり、下記のとおり）学生、アーティスト、教育・福祉関係者等、多彩な参加者が集まつた。

（1日目）2022.12.10（土） 参加者数 19名

（2日目）2022.12.11（日） 参加者数 20名

2.アンケート結果での高評価

*設問「今回の講座はいかがでしたか？」

→回答者 17名中 15名「非常に良かった」、

2名「良かった」

*設問「来年度以降の講座にまた参加したいと思いますか？」

→回答者 17名中 17名「思う」



図 1. 参加者募集ちらし



写真 2. 古賀教授による講義の様子



写真 3. ダンスワークショップの様子

◆テーマ RIC プロジェクト**・HYOGO e スポーツフェスタ in 城崎温泉パフォーマンス事業（兵庫県）****・但馬空港チャーター便お出迎え事業（但馬空港ターミナル（株））****◆研究者 講師 石井 路子****◆キーワード アート+観光、ヘルスケア、e-sports、但馬空港利用促進****◆概要**

コロナ禍で冷え込んだ観光産業をアートの視点を盛り込むことで、新たな「おもてなし」の形を創造するとともに、観光客が簡易なダンスと一緒に踊ることで身体・精神ともに健康を実感する場を創出する。

また、但馬地域の伝統芸能とのコラボレーションにより、観光客が但馬地域の魅力をより感じ得るコンテンツを開発し、その可能性と方向性を探る取組みを展開する。

◆事業内容

1. 兵庫県による e-sports による観光の活性化について検証する事業において、オープンスペースにフラッシュモブダンスを出現させ、観光客の興味関心を高めるとともに、簡易なダンスと一緒に踊ってもらうことで、e-sports への参加に対する抵抗感を払拭した。参加型ダンスには斎藤県知事も参加し、場を盛り上げることにご協力いただいた。

2. 兵庫県土木部空港政策課による但馬空港利用促進事業において、鹿児島空港からのチャーター便のお出迎えを行った。楽器演奏による鹿児島の民謡の演奏に始まり、ベートーベン交響曲第9番歓喜の歌のフラッシュモブダンスを空港内エプロンにおいて披露。また、養父市大屋地区の伝統芸能「ざんざこ踊り」保存会にご協力をいただき、空港ターミナル内で伝統芸能を披露、観光客に鑑賞してもらい、旅程のスタートを飾った。

◆成果

- ①城崎温泉における観光 + e-sports の可能性検証事業に参画
- ②但馬空港利用促進事業におけるおもてなし事業の新たな形を提案

◆事業実施**・令和4年10月22日(土) 城崎温泉 e-sports 検証事業**

オープンスペースにおける e-sports 体験 約50名

・令和4年11月12日(土) 但馬空港利用促進事業

チャーター便乗客 約40名 但馬空港利用者 約40名



◆**テーマ RIC プロジェクト「観光業界を目指す若者向けセミナー」**◆**研究者 助教 高橋 加織、助手 辻村 謙一**◆**キーワード 観光、高校生向け、セミナー、城崎、DX**◆**概要**

観光分野を支える中核人材を育成、輩出する契機とするため、観光分野にキャリアデザインを描く兵庫県内の高校生を対象とした体験型のセミナーを実施し、歴史、文化、芸術等の観光資源を活用した地域活性化を学ぶ機会を提供した。

◆**事業行程・内容**

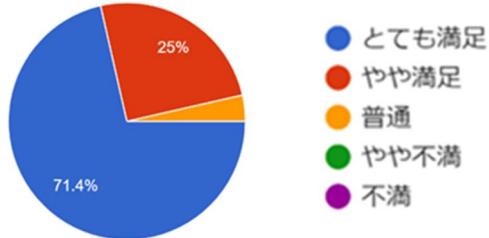
8:00	JR 神戸駅から送迎バス出発
10:30	但馬の観光事例紹介 本学教員及び学生によるアイスブレイクを兼ねた観光地の紹介
11:00	城崎温泉街散策体験
12:20	昼食 地元食材によるランチで但馬の魅力を食から体験（以下、本学にて）
13:00	観光 DX セミナー 城崎温泉観光協会会長・温泉旅館「山本屋」高宮氏による講演
13:40	観光ワークショップ 本学教員による『最低最高の但馬観光ツアー』から考える、これからの観光ニーズ』
15:00	セミナー終了

◆**参加者内訳**

計 34 名（高校 1 年生 8 名、高校 2 年生 26 名）

◆**参加者アンケート（一部抜粋）**

○セミナーの満足度



○感想

- ・学校だけでなくその周辺の魅力も伝わったし初めての人しかいなくて緊張したけど、グループで考えたり発表をする中で打ち解けしていく中で、人として成長することができた。また、バスでも大学生と実際に話すことができ、リアルな事情も聞けたので非常に参考になった。
- ・セミナーでは城崎温泉の経営についてのお話を聞くことができ楽しかったです。とても勉強になったので満足しています。他にも案内をしていただいた学生の方達の立ち振る舞いや、コミュニケーション力が参考になりました。本日はありがとうございました。
- ・観光地の経営の前提として、客がどこからきたのかというデータをとり、それを旅館やお土産店など皆で共有し合うことが DX に繋がると自分なりに理解ができた。

◆**テーマ** RIC プロジェクト「介護支援専門員対象コミュニケーション研修事業」

KAIGO
SHIEN
YOUKAI

◆**研究者** 講師 平田 知之

◆**キーワード** コミュニケーション研修

◆**概要**

兵庫県介護支援専門員協会但馬支部豊岡市ブロックに所属する介護支援専門員（ケアマネージャー）のコミュニケーション能力の向上を図るために、コミュニケーションを体系的に学ぶことのできるコミュニケーション研修を実施する。

◆**事業内容**

下記のとおり、研修を実施

(1) 介護支援専門員対象コミュニケーション研修

担当教員：講師 平田知之

演題：「コミュニケーションはなぜ むずかしいのか？」

対象者：兵庫県介護支援専門員協会但馬支部豊岡市ブロック所属の介護支援専門員等

図1 研修の様子



◆**テーマ RIC プロジェクト「但馬観光協議会と芸術文化観光専門職大学との連携事業」**

◆**研究者 学長 平田 オリザ、准教授 高橋 伸佳**

◆**キーワード 大学と地域との関り、但馬の観光モデル、大阪・関西万博**

KENMIN
KYOKU

◆**概要**

但馬地域の観光関係団体職員の交流を深めるとともに、観光を専門とする本学の教員・学生の知識・視点等を活用し、より良い施策立案や更なる情報発信強化、大阪・関西万博を見据えた但馬地域の観光ブランドの検討を行う。

◆**事業内容**

(1) 平田学長による講演

「芸術文化観光専門職大学の紹介・地域との関りについて」

(2) 高橋准教授によるワークショップの実施

「大阪・関西万博に向けた新たな但馬の観光ブランドを考える」

◆**成果**

(アンケート回答より抜粋)

・但馬全体でこういった取組をするのは初めてだったと思われます。何度もお話をあった連携というワードが印象的でした。

・多方面との接点が出来て良かったです。

また、関係者が広く集まり、観光の側面から地域の活性化を意見交換できたことは良い経験になりました。

・ハードルが高い課題だと思うが、地域間で連携をしていかないと但馬は衰退の一途をたどると思う。今回のようなワークショップを繰り返し続けていき、今後は地元の民間事業者や住民なども参加してもらい、この課題を解決していく糸口になるよう期待したい。



図 1. 高橋准教授によるワークショップ

◆**テーマ RIC プロジェクト「起業スタートアップ支援事業」**

◆**研究者 講師 瓶内 栄作**

◆**キーワード 起業、第二創業、経営革新、新分野進出**

◆**概要**

但馬地域において起業、新分野創出・新規事業を計画している方へ向けて本事業を実施し、起業・第二創業の推進および起業家同士の交流の場の創出を目指す。

◆**事業内容**

(1) 瓶内講師による講演

「イノベーションのための第一歩～中小企業による事業創造の実現について～」

※兵庫県但馬県民局主催、(株)但馬銀行及び本学が共催として、「スタートアップビジネススクエア2023」を実施し、その中で講演を実施した。

◆**成果**

受講生プレゼンテーション

・起業家および経営革新計画承認企業

1～3社より発表

・瓶内先生による評価コメント、参加者からの質疑応答

※終了後、参加者同士の交流



図 2. 瓶内講師による起業関連講義の様子

◆**テーマ RIC プロジェクト「JICA 発展途上国向け訪日研修における協力事業」**

◆**研究者 学長 平田 オリザ、助教 河村 竜也**

◆**キーワード 演劇的手法を用いたコミュニケーション教育**

◆**概要**

PREX（公益財団法人 太平洋人材交流センター）が JICA（独立行政法人 国際協力機構）関西より委託を受けて実施する発展途上国の観光関係行政官等向け訪日研修において、研修プログラムの一部を本学が協力して実施する。

JICA
PREX

◆**事業内容**

平田学長説明「芸術文化観光専門職大学設立と役割」

日時 令和5年2月14日（金）13時～

会場 本学

聴講者 JICA 観光関係行政官一行

講義 「国際的イベント「豊岡演劇祭」と滞在型観光」 助教 河村 竜也

日時 令和5年2月17日（金）14時～

会場 本学

聴講者 JICA 観光関係行政官一行

◆**実施状況**

平田学長説明 2/14



河村助教講義 2/17



◆**テーマ RIC プロジェクト「宝塚市との包括連携協定締結と平田学長講演会」**

◆**研究者 学長 平田 オリザ**

◆**キーワード 演劇的手法を用いたコミュニケーション教育**

◆**概要**

宝塚市及び芸術文化観光専門職大学が相互に連携・協働して、芸術文化及び観光を生かした地域活性化に資する取組や人材育成を行うことにより、宝塚市域の持続的な成長及び市民サービスの向上を図ることを目的とする。

TAKARA
ZUKA

◆**事業内容**

平田学長講演会「職場におけるコミュニケーション」

日時 令和5年3月24日（金）14時～

会場 宝塚市立文化芸術センター キューブホール

聴講者 宝塚市職員、令和5年度宝塚市職員内定者

◆**実施状況**

包括協定締結式



平田学長講演会



◆テーマ エクステンションセンター 開学記念フォーラム

「社会的インテグレーションと芸術・文化×観光」

EXTENSION
CENTER

◆企画・運営 令和3年度エクステンションセンター委員（委員長/教授 大社充）

◆キーワード 芸術文化と観光 芸術文化観光学 開学 文化観光 外国人観光客

◆概要

本学の開学を記念して令和4年2月に開催を予定していたが、コロナ禍により延期し、5月に兵庫県立美術館ミュージアムホールにて開催した。芸術文化と観光の関係性を紐解き、新たに構築を目指す芸術文化観光学のありようを考察することにより、改めて本学の存在意義を鮮明にした。

◆プログラムと内容

1. 基調講演「芸術・文化と観光 – 地域の芸術文化を世界とつなぐ観光の力 –」

講演者 京都府立大学名誉教授/関西国際大学教授 宗田好史氏

[内容] 鉄道の普及で観光が近代化すると万国博覧会が人気を博し、ヴェネツィア市ではその影響を受けて芸術・文化に絞ったビエンナーレを始め、観光と相乗効果で世界的な文化都市として発展した。この歴史を踏まえて、日本で芸術・文化、そして観光が社会、経済に果たす役割を解説。そして兵庫県が創造芸術を活かした新しい観光文化の中⼼となる道筋を示した。

2. 基調報告「舞台芸術をコンテンツとした文化観光の可能性」

講演者 東京大学大学院特任准教授 アンネグレート・ベルクマン氏

[内容] 香川県琴平町のこんぴら歌舞伎や兵庫県豊岡市出石町の永楽館歌舞伎など、歌舞伎を観光に活かしてまちづくりを成功させた事例を紹介。そして、観光推進においてパフォーミングアーツには大きな可能性があり、とりわけ外国人観光客に対しては日本の伝統演劇は地域の観光を発展させる大きな可能性があるとのヒントを示した。

3. 本学の紹介 副学長 藤野一夫

[内容] 本学の概要や、育成する人材像、芸術文化観光の役割について説明した。

4. パネル討議 「芸術・文化×観光の社会的インパクト」

パネラー 宗田好史氏、アンネグレート・ベルクマン氏、副学長/教授 藤野一夫

コーディネーター 教授 大社充

[内容] 芸術・文化と観光が社会的にインテグレーション（統合）することによる社会的影響や未来を討議するとともに、会場の参加者からの質問も受け、活発な意見が飛び交うプログラムとなり、考察が深まった。

◆成果

参加者 70名。参加者アンケートによる満足度調査では、回答者全員が「とてもよかったです」又は「まあまあよかったです」と回答した。

フォーラムの開催により、芸術文化観光学という新しい学問領域の先鞭をつけた。また、開催後、HPにて録画配信を行ったことにより、芸術文化観光学の構築を目指す本学の存在を広めた。



宗田好史氏



アンネグレート・ベルクマン氏



パネル討議の様子

◆**テーマ エクステンションセンター リカレント講座「但馬ストーク・アカデミー」**

EXTENSION
CENTER

◆**研究者 教授 福嶋 幸太郎**

◆**キーワード リカレント教育（学び直し） 経営学**

◆**概要**

2000年から20年間で但馬の総人口は21%減少し、生産年齢人口（15～64歳）は31%も減少した。その結果、但馬は兵庫県の面積の25%を占めるが、総人口は僅か2.9%まで減少した。但馬のサービス業は20年間で21%の消費者需要を喪失し、全産業で人手不足が顕在化している。

労働力を確保するには、高齢者・女性・外国人の活用という労働の量的向上と、社会人教育・リカレント教育による労働の質的向上が不可欠である。リカレント教育のほとんどは都市部で実施され、地方で実施される事例はほとんどない。しかし、実は経済が疲弊する地方での必要性のほうが切実である。2022年9月に但馬で初めてのリカレント教育を実施し、経営学を学んだ。受講後の調査では、受講満足度94%、次年度参加希望率96%と好評であった。

◆**講座内容**

1. 経営管理と組織（教授 福嶋幸太郎）
2. 経営戦略（講師 千賀喜史）
3. 人的資源管理（講師 瓶内栄作）
4. IT・DX（准教授 藤本悠）
5. 職場で活かせるコミュニケーション能力（講師 平田知之、助教 中村嘉雄）
6. マーケティング（教授 佐藤善信）
7. 財務管理とビジネス会計（ゲスト講師/公認会計士・税理士 浅野禎彦）
8. 製品開発と生産管理（ゲスト講師/中小企業診断士・技術士 楠田貴康）
9. ビジネスプラン作成（助教 中村嘉雄）
10. 資金調達のいろは（ゲスト講師/中小企業診断士 神田 敦弘）

◆**成果**

開講講座数：10講座（各90分×3回）

受講者数：計215名（複数講座を受講された方を含む）

◆**受講者の内訳**

受講後の調査から、受講者は但馬に勤務地がある企業経営者26%・管理者23%・従業員46%で、95%がビジネスマンであった。また、受講者の74%が20～40歳代であり、就業時間中に企業の派遣支援を受けた受講者が90%であった。受講者の75%が企業運営に課題意識をもって参加していることも分った。

◆**受講者の感想（一部抜粋）**

「社内で感じていた課題を論理的に考えられた」、「組織を今後どのように変革すべきかのヒントを得た」、「自分の意識が変わった」、「もっと早く、たくさん受講したかった」、「大学での学び直しがこんな近くでできて嬉しい」、「製品開発は今まで考えたこともなかったから、新たな知識を得られた」「社会人の学び直しは必須。来年もぜひ実施してください!!ビジネスをお願いします。また参加したい。」

◆**講座の様子**



◆**テーマ エクステンションセンター 小中高大連携活動**◆**キーワード** 小中高大連携、高大連携、探求授業、特別講義、教員向けの講演◆**概要**

教員がそれぞれの知識と経験を活かし、地域の教育現場での授業や特別講義など様々な活動を行った。

◆**内容**

各教員の連携内容は以下のとおり（※県内実績のみ取りまとめ）

【芸術文化系(舞台芸術)】

・平田 オリザ（学長）

時期	連携先	内容
5, 11月	兵庫県立宝塚高等学校	特別講義
5月	但馬小学校校長会	講演
7月	兵庫県立伊丹北高等学校	「未来を切り開く講演会」
8月	豊岡市教育フォーラム	園小中学校教員向けの講演
8月	六甲学院高等学校	ワークショップ
8月	播磨町	教員対象講演
9月	兵庫県立日高高等学校	ワークショップ
10月	兵庫県立八鹿高等学校	ワークショップ
10月	豊岡市立豊岡小学校	コミュニケーション授業
10月	豊岡市立豊岡南中学校 PTA	講演会、ワークショップ
10月	豊岡市 PTA 連合会	役員対象講演会、ワークショップ
11月	但馬地区高校校長会	講演
11月	豊岡市立竹野小学校	コミュニケーション授業
12月	兵庫県 PTA 連合会	講演
1月	豊岡市立日高東中学校	コミュニケーション授業
1月	神戸市	小学生対象ワークショップ

・杉山 至（准教授）

時期	連携先	内容
4月	兵庫県立豊岡総合高等学校	舞台美術特別講義

・平田 知之（講師）

時期	連携先	内容
5月	養父市立養父中学校／3年生	国語ワークショップ（演劇的手法を用いた小説教材『握手』の授業）
5月	兵庫県立大学附属中学校／2年生	学校設定教科「コミュニケーション」ディベート
6月	兵庫県立大学附属中学校／3年生	学校設定教科「コミュニケーション」演劇ワークショップ
7月	兵庫県立豊岡聴覚特別支援学校／中学部	学生ボランティア交流（学生指導・コーディネート）
9月	兵庫県立出石特別支援学校／中学部	学生ボランティア交流（学生指導・コーディネート）
11月	兵庫県立加古川東高等学校	コミュニケーション学の基礎レクチャー
12月	養父市立養父中学校／2年生	国語ワークショップ（演劇的手法を用いた小説教材『盆土産』の授業）
1月	兵庫県立豊岡総合高等学校	教員向け研修（ひょうご学力向上研究事業）

・河村 竜也（助教）

時期	連携先	内容
7~8月	兵庫県立出石高等学校／2年生	クラス演劇指導

【文化芸術系（アートマネジメント）】

・熊倉 敬聰（教授）

時期	連携先	内容
5月	兵庫県立豊岡総合高等学校	「現代アートについて」特別講義
9月	兵庫県立出石高等学校/3年生	「美術概論」特別講義（探求）

【観光系】

・中尾 清（教授）

時期	連携先	内容
7月	兵庫県立出石高等学校/2年生	「地域課題解決について」特別講義（探求）

・野津 直樹（講師）

時期	連携先	内容
6~12月	兵庫県立豊岡高等学校/1年生	地域公共交通の講義及び演習指導（探求）
12月	兵庫県立八鹿高等学校/1年生	「地域公共交通について」特別講義

・高橋 加織（助教）

時期	連携先	内容
10月	兵庫県立八鹿高等学校/1年生	「ワーク・ライフ・バランスについて」特別講義

・中村 敏（助教）

時期	連携先	内容
6~12月	兵庫県立豊岡高等学校/1年生	「地域観光について」講義及び演習指導（探求）

【情報系】

・藤本 悠（准教授）

時期	連携先	内容
1月	兵庫県立八鹿高等学校/1年生	「AIについて」特別講義

【経営系】

・山中 俊之（教授）

時期	連携先	内容
2月	兵庫県立出石高等学校/2年生	探求の指導（探求）

・中村 嘉雄（助教）

時期	連携先	内容
6~12月	兵庫県立豊岡高等学校/1年生	「地場産業について」講義及び演習指導（探求）

・辻村 謙一（助手）

時期	連携先	内容
6~12月	兵庫県立豊岡高等学校/1年生	「ロマンス力を活用したまちづくりについて」講義及び演習指導（探求）



◆テーマ エクステンションセンター 生涯学習講座「CAT 市民公開講座」

◆企画担当者 講師 近藤 のぞみ

◆キーワード 内田樹、人口減社会、文化発信

◆概要

本学独自の学びについて、地域と共有する機会として「CAT 市民公開講座」を企画した。記念すべき第1回目は武道家としてもご活躍されている本学の客員教授、内田樹氏を迎えて「人口減社会のシナリオと地方からの文化発信」をテーマに講座を開講し、84名の受講者が参加した。

◆講座の様子



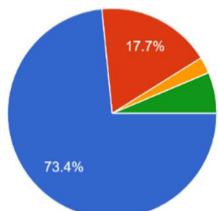
◆成果

受講者数：84名

◆受講後のアンケート結果

○講座の満足度

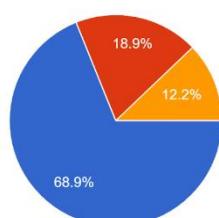
(満足：73.4%，やや満足：17.7%，どちらともいえない：2.5%，やや不満：6.3%)



● 満足
● やや満足
● どちらともいえない
● やや不満
● 不満

○本学に対する印象の変化

(良くなった：68.9%，やや良くなった：18.9%，どちらともいえない：12.2%)



● 良くなった
● やや良くなった
● どちらともいえない
● やや悪くなつた
● 悪くなつた

○講座の感想（抜粋）

- ・地方都市の大切さを実感できた。
- ・都市から豊岡へ移住した事を今日の話でさらに楽しめるようになった。「一人でもとりあえずやってみる」
- ・色々な世代の方が参加されていたので良かったです。もっと若い世代にも参加してもらいたい内容でした。
- ・大人になって自分を教育することができる（地方に過ごしながら）、本当にありがとうございます。
- ・今後も地方創生に関するテーマの講座を定期的に開催してください。
- ・様々な国の人口減少の現状やこれからの方のあり方について学べてよかったです。
- ・自分に何ができるか考えさせられました。

◆テーマ キャリアサポートセンター「企業・自治体向け CAT オープンキャンパス」**◆担当 キャリアサポートセンター****◆キーワード キャリアサポート、但馬、企業、自治体、実習、オープンキャンパス、就職****◆概要**

キャリアサポートセンターでは今年度、第一期生・第二期生へのキャリア形成支援を試みてきました。本事業「企業・自治体向け CAT オープンキャンパス」はその一環として、兵庫県但馬および周辺地域の大卒求人をおこなう民間企業および団体、さらに本学の実習受入先の採用担当部署に本学のキャリアサポートセンターおよびカリキュラム（教育内容）の概要と大学施設等を紹介し、学生の進路先について懇談する機会をつくることを目的に実施しました。

◆内容

日時：2022年（令和4年）12月8日・12月15日・12月22日：13:30～15:00

場所：芸術文化観光専門職大学構内

内容：①本学の教育の紹介、②キャンパスツアー、③キャリアサポートセンター教職員との懇談

◆成果

3日間のオープンキャンパス期間を通じて但馬地域内外から37企業・団体（但馬内32・但馬外5）、58名の参加がありました。実施後のアンケートの記述欄には、「大学の取り組みを知るだけでなく、弊社のことも知ってもらう機会となった」「専門分野だけでなく、コミュニケーション能力の涵養にも力を入れておられることを初めて知った」「専門職大学が通常の大学とどのように異なるかを知ることができた」「専門性に特化し生徒と講師との一人一人の距離感が近いと感じた」等の感想や、今後への期待として、「就職先を検討してもらう際の候補に考えてもらいうくらには学生さんに親近感を感じてもらえるような何かを双方向で創り上げていける」機会、「学生達自身がどのようなキャリアを希望しているのかを知れる機会」、「但馬地域で生活・就職することを希望する学生の方々を対象に、インターンシップや企業訪問・説明会の機会」、「定期的な会社見学会」、「地元地域も含めた企業・団体（就職先やその他活動先）等への情報交換」の創出等のアイデアを数多くいただきました。これらは、学生の進路開拓支援に生かすとともに、キャリアサポートセンターとして引き続き地元企業や団体のみなさまとの情報交換・交流を図っていきたいと思います。



図1.オープンキャンパスの様子



図2.キャリアサポートセンター学生相談室

◆テーマ 学術情報館センター「パフォーミング・ライブラリー」第4回
《但馬を記録する、但馬を創造する》—「創造的アーカイヴ」の可能性—

◆研究者 教授 熊倉 敬聰、准教授 藤本 悠

◆キーワード 但馬、アーカイヴ、文化財、利活用、作品制作

◆概要

記録することと創造すること、アーカイヴとクリエーション。前者は過去に向かい、後者は未来に向かい、ふつう両者は対立するものと考えられている。しかし、本当にそうだろうか？確かにこれまでの芸術作品は、東京だろうが、パリだろうが、シンガポールだろうが、その「土地」とかならずしも関係のない作品を制作し、展示・上演していれば事足りていた。しかしそれでは、その「土地」でこれまで生きてきた人々が作り出した文化が、作品制作に活かされない。「グローバル」な経済、文化が限界を迎えるつある今こそ、その「土地」ならではの文化・記憶が新たに蘇るような作品創造が必要なのではないだろうか？それを、本学の教員と学生たちが、但馬地域の3市2町の文化財担当者と協働して、但馬の文化資源のアーカイヴを活用しどのような創造行為に結びつけていくかを模索する。

◆事業内容

この企画は、2022年度から2023年度にかけて展開する予定である。今のところ少なくとも以下の3回を計画している。その第1回目を2022年12月9日、学術情報館にて行った。今回のパネル・ディスカッション〈但馬の文化資源に関するアーカイヴの現状と課題〉は、但馬地域の3市2町の主に文化財担当者に集まっていたとき、これまで構築されたアーカイヴの紹介と課題、さらには問題提起をしていただいた。そしてその発表に基づいて、本学と市町が今後そのアーカイヴを活用してどのような創造行為に結びつけていくかについて議論した。今後、以下の企画を計画中：第2弾ワークショップ「但馬地域のアーカイヴの創造的利活用を実験してみる」（市町の文化財担当者と本学学生・市民とのコラボレーション）、第3弾シンポジウム「《但馬を記録する、但馬を創造する》—「創造的アーカイヴ」の可能性」（アーカイヴとクリエーションをどのように架橋するか？：芸術系アーキヴィストを招いて）

◆成果

豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町の文化財担当者、アーキヴィスト24人が自らの市・町のアーカイヴの現状と課題を共有し、今後本学との協働においてどのような創造行為へと結びつけていくかについて非常に有意義なディスカッションを行うことができた。次回は、本学学生ならびに市民とのワークショップを開催し、実際に文化財の利活用の一環として作品制作を行うが、今回のディスカッションはその下地づくりに大いに貢献したと思われる。

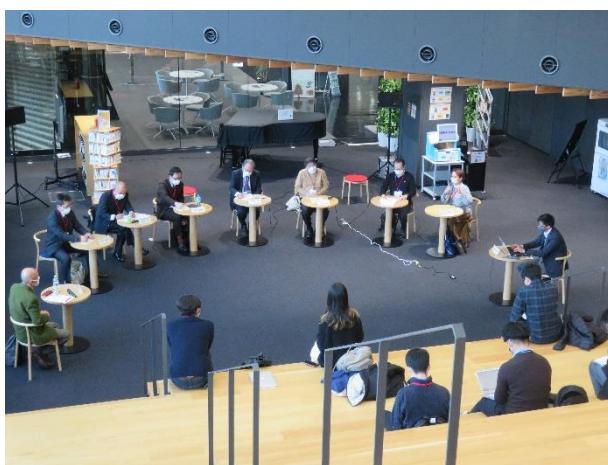


図1.パネル・ディスカッションの様子



図2.開催案内

◆事業名 CAT パフォーミングアーツプロジェクト (PAP)

◆担当教員 石井 路子、山内 健司、児玉 北斗、杉山 至、尾西 教彰、木田 真理子、近藤 のぞみ、河村 竜也、田上 豊

◆キーワード 演劇 ダンス 公演

◆概要

CAT パフォーミングアーツプロジェクトは、兵庫県・豊岡にある芸術文化観光専門職大学(CAT)で、授業の一環として年 2 回、国内外一線級のアーティストが携わり、学生と共に演劇やダンスなどの舞台作品を創作し、一般に公開して上演を行っている。

昨年度、第 1 回公演では、学長平田オリザが作・演出を務めた『忠臣蔵・キャンパス編』を上演。今年度は演劇作品とダンス作品の 2 演目を上演した。

◆事業内容

1 .CAT パフォーミングアーツプロジェクト第 2 回公演 『OZ2022』

原作 ライマン・フランク・ボーム「オズの魔法使い」

構成・演出 多田淳之介

出演・スタッフ：芸術文化観光専門職大学学生

公演期間：2022 年 5 月 14 日(土)～22 日(日) 全 7 日 公演入場者数：700 名



『OZ2022』舞台写真



『OZ2022』舞台写真

2 .CAT パフォーミングアーツプロジェクト第 3 回公演 『詩の朗読』

振付・演出 山下残

出演・スタッフ：芸術文化観光専門職大学学生

公演期間：2022 年 12 月 4 日（日）～11 日（日）

全 7 公演の予定だったが、関係者の体調不良により 12 月 4 日の 2 回のみ実施 入場者数：70 名



『詩の朗読』スタッフの様子



『詩の朗読』舞台写真©bozzo

■行政・団体・企業等との連携協定（2022年度締結分）

企業名	協定名	協定内容	協定締結日
JA たじま	芸術文化観光専門職大学とたじま農業協同組合における産学連携協力の推進に係る協定	但馬地域内における観光と農（食）の更なる連携を促進し、产学連携による地域活性化を図る。	2022.10.21
宝塚市	宝塚市と芸術文化観光専門職大学との包括連携協定	芸術文化及び観光を生かした地域活性化に資する取組や人材育成により、宝塚市域の持続的な成長及び市民サービスの向上を図る。	2023.3.24



たじま農業協同組合との連携協力協定



宝塚市との連携協力協定

■企業との連携事業（2022年度実施分）

企業名	事業名	事業・協定内容
(株)但馬銀行	但馬地域における事業承継に関する共同事業	但馬地域における事業承継に関する現状課題や実態、進捗状況などを調査・分析し、事例集を作成。
たじま農業協同組合	但馬の農畜産物紹介セミナー	本学教職員・学生向けの但馬の食（農）を深く知るセミナーを開催し、観光との連携を促進。
たじま農業協同組合	CAT×JA たじま 大学ノベルティ制作	JA たじま提供の「コウノトリ育むお米」を使用したパックライスを本学ノベルティとして制作し、観光×食（農）を推進



但馬銀行との事業承継に関する共同事業

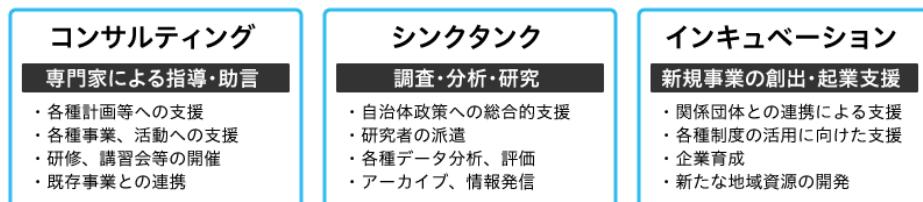


たじま農業協同組合との大学ノベルティ共同制作

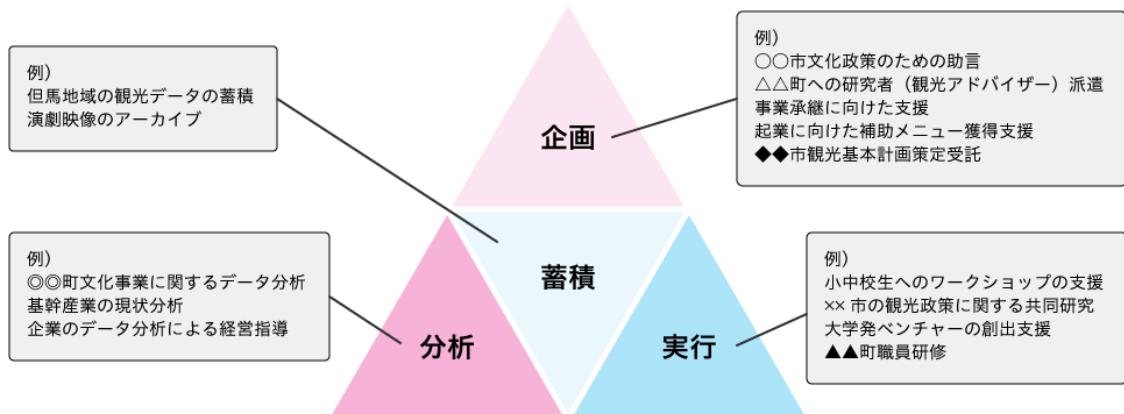
地域リサーチ＆イノベーションセンターについて

2021年に開学した芸術文化観光専門職大学では、地域創生に資する拠点として「地域リサーチ＆イノベーションセンター」（略称：RIC「リック」）を設立しました。RICは、地域と大学をつなぐ窓口となり、地域課題の解決を通じて地域と大学を進化させることを目的としています。

【地域リサーチ＆イノベーションセンターの3つの機能】



【各フェーズにおけるプロジェクト】



- ◆ お問い合わせ・産学官連携申し込み
芸術文化観光専門職大学
・地域リサーチ＆イノベーションセンター（RIC）・地域協働課

〒668-0044 兵庫県豊岡市山王町 7-52
電話 0796-34-8123（代表）、34-8162（RIC ダイヤルイン）
URL <https://www.at-hyogo.jp/>
Mail cat-hyogo@ofc.u-hyogo.ac.jp



芸術文化観光専門職大学
Professional College of Arts and Tourism